

命の尊さを伝える本(平成30年)

12月の推薦本

- ・「あなたがだいすき」

鈴木まもる著 (ポプラ社)

おすすめコメント: 子供が成長した今、「大好き」と言葉に出して伝える事はなくなりましたが、

一日に何度も言葉に出して伝えていた頃を懐かしく感じると共に、我が子を想う原点に立ち返れるような一冊です。

(蔵書: 北図書館、南、あおぞら号)

- ・「あなたの物語ー人生ですべきたった一つのことー」

水野敬也/作 鉄拳/絵 (文響社)

おすすめコメント: 今、生きていることへの奇跡、命の尊さを改めて感じさせてもらいました。

そうきたかー! と、感動のラストシーンが待っています!

思春期の子どもたちにもおすすめしたいです。

イラストと短い文章で、あっという間に読み終えますが、何度も読みたくなる本です。

(蔵書: 南図書館、あおぞら号)

11月の推薦本

- ・「国境のない生き方～私をつかった本と旅～」

著: ヤマザキマリ (小学館)

おすすめコメント: 作者は「テルマエ・ロマエ」のヤマザキマリさん。

地球サイズで見れば、悩みなんてハナクソ。

(平塚市の図書館には蔵書はありません。)

- ・「伝え方が9割」

著: 佐々木圭一 (ダイヤモンド会)

おすすめコメント: 作者はコピーライター。

自分の気持ちの伝え方は「センス」ではなく「技術」です!

(蔵書: 中央図書館、北、あおぞら号)

10月の推薦本

- ・「あらしのよるに」

きむらゆういち作 あべ弘士絵 (講談社)

おすすめコメント: ヤギとオオカミが闇の中で出会い、不思議な友情が生まれます。

その後、シリーズ化してお話は続き、映画化もされました。

勘違いから始まったお話が、やがて切なく深い友情物語へと変わっていく続編もぜひ。

(蔵書: 中央図書館、北、西、南)

・「おまえうまそうだな」

宮西達也 作（ポプラ社）

おすすめコメント：宮西達也氏の代表作と言っていい作品です。

父親として、ついホロリとしてしまうほのほのとした絵本です。

（蔵書：中央図書館、北、西、南、あおぞら号）

9月の推薦本

・「まってる。」

ヴィッド・カリ／著 セルジュ・フロック／著 こやま くんどう／やく（千倉書房）

おすすめコメント：一本の赤い糸が 日々の暮らしや 人生で「まってる。」瞬間のひとこまを表現しています。

（蔵書：中央図書館、南）

・「いるかのカーフ〈ミセスこどもの本〉」

ロバート・A・モリス：文／マモル・フナイ：絵／杉浦宏：訳（文化の出版局）

おすすめコメント：いるかの赤ちゃんが生まれ、母いるかと共に群れの仲間に助けられながら生きる様子がいきいきと描かれています。

ひらがな書きですが、大人でも楽しめます。

（蔵書：南図書館）

8月の推薦本

・「ほくのきいろいバス」 荒井良治／作（東京 学研）

おすすめコメント：はじめてひとりで出かける「ほく」を迎えにきてくれたのは太陽からきた「きいろいバス」。

町をめぐり、川をこえ…お出かけ前のわくわくした気持ちが絵からもたくさん伝わってきます。

夏休み、お出かけ前にどうぞ。

（蔵書：中央図書館、北、西）

・「おひさまみたいに」

スーザン・マリー・スワンソン／文 マーガレット・カドス＝アーヴィン／絵 ふしみ みさを／訳（東京 ほるぷ出版）

おすすめコメント：夏、太陽に向かって元気に咲くひまわり。

女の子が、種をまき大切に育てていく様子がやさしい言葉づかいで語られています。

ひまわりの絵も明るくステキです。

（蔵書：北図書館、西、南）

7月の推薦本

・「バッタを倒しにアフリカへ」 前野ウルト浩太郎 著（東京 光文社）

おすすめコメント：単身サハラ砂漠の国、モーリタニアへ乗り込む青年バッタ博士。

多くの笑える苦難を乗り越えて いざバッタと勝負。

「よし、自分も challenge！」と自己啓発される冒険エッセイです。

(蔵書:西図書館、南)

・「かがみの孤城」辻村深月 (東京 ポプラ社)

おすすめコメント:不登校の中学生が鏡の世界で、謎の鍵探しをすることに。

彼らの現実世界での苦悩、鏡の中での連帯感、謎が解けた先の希望が描かれています。

(蔵書:中央図書館、北、西、南)

6月の推薦本

・「今日」伊藤比呂美 訳 下田昌克 画 (東京 福音館書店)

おすすめコメント:何も出来なかったと思う日こそ「すごく大切なことをしていたんだって」思える。

お母さんたちの心が救われる一冊です。

(蔵書:中央図書館、南)

・「ひろしまのピカ」丸木 俊 え・文 (東京 小峰 書店)

おすすめコメント:7才のみいちゃんが住む広島に、核爆弾が落とされ一瞬にして人々の未来を奪いました。

忘れてはならない、戦争のお話です。

(蔵書:中央図書館、北、西、南)

5月の推薦本

・「いけちゃんとほく」西原理恵子 著 (東京 角川書店)

おすすめコメント:不思議な生き物・いけちゃんとほくの心の交流。

いつも見守り、支えてくれるいけちゃんの言葉にじーんとききます。

(蔵書:中央図書館、北)

・「おおきなけやき」林木林 作 広野多珂子 絵 (東京 鈴木出版)

おすすめコメント:森で一番背が高く空をよく知る樺が、歳をとって倒れました。

横たわることしかできない樺の心の変化と森の再生が、時の流れとともに美しい絵で描かれています。

(蔵書:西図書館、南)

4月の推薦本

・「つぐみのひげの王さまーグリム童話よりー」

ヤーコフ・ルートヴィヒ・グリム作 ヴィルヘルム・カール・グリム作 モーリス・センダック絵 (評論社)

おすすめコメント:美しいお姫様が立派な求婚者達をあざけたため、怒った父王に旅芸人と結婚させられてしまう。

慣れない家事に商い、台所の下働きと、姫には次々と試練が待ち受けて…。

思いがけない展開と幸せな結末が、心に強く残る昔話です。

(蔵書:中央図書館、北)

・「うつヌケーうつトンネルを抜けた人たちー」

田中圭一著（東京 KADOKAWA）

おすすめコメント：パロディマンガの巨星がマジに描いた、明日は我が身のうつ病脱出コミックです。

著者自身のうつ病脱出体験をベースにうつ病からの脱出に成功した人たちをレポート。

うつ病について実体験から知識を学べ、かつ悩みを分かち合い勇気付けられる、画期的なドキュメンタリーコミックです。

（蔵書：中央図書館、南）

3月の推薦本

・「やさしいライオン」やなせたかし著（フレーベル館）

おすすめコメント：強い絆で結ばれたライオンと育ての親である犬が、人間の都合で引き離されてしまいうお話。

お互いを想う気持ちで溢れています。

（蔵書：中央図書館、北、西、南）

・「じぶんだけのいろーいろいろさがしたカメレオンのはなしー」レオ・レオニ著 谷川俊太郎訳（好学社）

おすすめコメント：現実が変わらなくても、心の変化で世界は変わるのかもしれない。

（蔵書：中央図書館、北、西、南）

2月の推薦本

・「だいすき ぎゅっ ぎゅっ」

フェイス・ゲイシャイトー/ミム・グリーン 文 テイヴィッド・ウォーカー 絵 福本友美子 訳（岩崎書店）

おすすめコメント：ママはいつも忙しくて大変だけど、いつでも何回でもぎゅってしたら、ママもこどももホッと幸せを感じると思います。

（蔵書：中央図書館、北、西）

・「おかあさんはね」

エイミー・クラウス・ローゼンタール 文 トム・リヒテンヘルド 絵 高橋久美子 訳（マイクロマガジン社）

おすすめコメント：小さな我が子を抱いたとき、ただただ健やかに育つようにと願うだけで涙が出たんだっけなと思い出しました。

（蔵書：南図書館）

1月の推薦本

・「絵本版シートン動物記 名犬ビンゴ」小林清之介 絵：伊藤悌夫（ひさかたチャイルド）

おすすめコメント：自然の中で育ち、野性的な犬に成長したビンゴ。ある日、狩りに出た元の飼い主シートンは自分のしかけた罠にかかってしまう。

夜、コヨーテの群れが忍び寄ってきて…。人と犬とのきずなの固さが感動的です。

（蔵書：中央図書館、北、西）

・「こいぬがうまれるよ」 文:ジョアンナ・コール 写真:ジェローム・ウェクスラー 訳:つぼいいくみ (福音館書店)

おすすめコメント:ダックスフントの母犬が赤ちゃんを産む瞬間から、子犬の「ソーセージ」が2か月になるまでの様子が、子供の目線で綴られます。

少しずつ成長する子犬が本当に可愛い。

モノクロ写真が生命の不思議さを感じさせます。

(蔵書:中央図書館、西、南)